

令和 6 年度 第 1 回福智町地域公共交通会議

日時：令和 6 年 5 月 2 1 日(火) 1 0 時 0 0 分～

場所：福智町役場 3 階 3 0 1 会議室

1 開会

2 議題

- (1) 令和 5 年度事業報告及び決算報告
令和 6 年度事業計画（案）及び予算（案）
- (2) 令和 6 年度事業概要
- (3) 地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請

3 その他

【配布資料】

- ・ 令和 6 年度 第 1 回福智町地域公共交通会議次第、構成員名簿
- ・ 座席表
- ・ 資料 1：令和 5 年度事業報告、令和 6 年度事業計画案
- ・ 資料 2：令和 6 年度事業概要
- ・ 資料 3：地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請（案）
- ・ 参考資料：「ふく～るバス」運行実績

令和6年度 福智町地域公共交通会議委員名簿

構成員（第3条）	所属団体・推薦団体	委員職名	委員氏名
町長又はその指名する者	福智町	副町長	竹下 靖
福智町商工会の代表者またはその指名する者（生活弱者分野）	福智町商工会	会長	池田 昇
一般旅客自動車運送事業者	西鉄バス筑豊株式会社 田川支社	支社長	和多 正範
	田川構内自動車 株式会社	総務部長	長井 智章
一般貸切（乗用）旅客自動車運送事業者	有限会社プラス観光	代表取締役	石山 吏生
鉄道事業者	平成筑豊鉄道株式会社	運輸事業部長	石松 祥宏
住民又は利用者の代表	福智町行政区長会	会長	松山 榮治
	福智町老人会	会長	松尾 重義
	福智町PTA連合会	会長	原口 将光
九州運輸局福岡運輸支局長又はその指名する者	九州運輸局福岡運輸支局	支局長	古賀 秀策
一般旅客自動車運送事業者の組織する団体	一般社団法人福岡県バス協会	専務理事	中川原 達也
	福岡県筑豊地区タクシー協会	会長	嘉久 礼子
一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車の運転者が組織する団体	西鉄グループバス労働組合	副執行委員長	熊本 正志
学識経験者	公立大学法人福岡県立大学	人間社会学部公共社会学科・教授	堤 圭史郎
町内の道路管理者又はその指名する者	福岡県田川県土整備事務用地課	管理係長	磯田 靖彦
福岡県田川警察署の代表者又はその指名する者	福岡県田川警察署交通課	交通総務係長	中村 隆博
福智町社会福祉協議会の代表者又はその指名する者	福智町社会福祉協議会	事務局長	中野 雅浩
町行政（行政区関係）	福智町	総務課長	長野 士郎
町行政（福祉行政関係）	福智町	高齢障がい福祉課長	若林 友克
町行政（保健行政関係）	福智町	健康子育て支援課長	小松 卓美
町行政（教育機関）	福智町立図書館 ふくちのち	館長	井上 憲治
その他町長が認める者	福岡県企画・地域振興部 交通政策課	課長補佐	三重野 直美
その他町長が認める者（観光分野）	上野焼協同組合	理事長	高鶴 享一

令和6年度 第1回福智町地域公共交通会議 座席表

令和6年5月21日(火)10時00分～
福智町役場 3階会議室

出入口

出入口

福智町 福智町商工会
副町長 会長
竹下 靖 会長 副会長 池田 昇

九州運輸局福岡運輸支局
支局長
古賀 秀策
(代理 首席運輸専門官課長 辻 美貴香)

福岡県筑豊地区タクシー協会
会長
嘉久 礼子

西鉄グループバス労働組合
副執行委員長
熊本 正志

公立大学法人福岡県立大学
人間社会学部公共社会学科・教授
堤 圭史郎

福岡県田川県土整備事務所用地課
管理係長
磯田 靖彦

福岡県田川警察署交通課
交通総務係長
中村 隆博
(代理 交通総務係長 警部補 戸田 智宏)

福岡県企画・地域振興部交通政策課
課長補佐
三重野 直美

福智町
総務課長
長野 士郎

福智町
健康子育て支援課長
小松 卓美

西鉄バス筑豊株式会社 田川支社
支社長
和多 正範

有限会社プラス観光
代表取締役
石山 吏生

平成筑豊鉄道株式会社
運輸事業部長
石松 祥宏

福智町社会福祉協議会
事務局長
中野 雅浩

福智町行政区長会
会長
松山 榮治

福智町老人会
会長
松尾 重義

福智町
総務課長
若林 友克
(代理 課長補佐 瀬川 政一郎)

福智町立図書館 ふくちのち
館長
井上 憲治
(代理 係長 梅原 美由希)

上野焼協同組合
理事長
高竈 享一

(随席)

日永田 憲章
主査
まちづくり総合政策課

石川 真由美
係長
まちづくり総合政策課

松村 俊明
課長補佐
まちづくり総合政策課

犬丸 且久
課長補佐
まちづくり総合政策課

木村 貴代美
課長
まちづくり総合政策課

川崎 謙次
(株)千代田コンサルタント
九州支店 道路部 計画課長

令和 5 年度 福智町地域公共交通会議事業報告

	事業内容
4月1日～ 9月30日	○ ふく～るバス実証運行継続
5月15日	○ 令和 4 年度地域公共交通会議決算監査
6月29日	○ 第 1 回福智町地域公共交通会議（R 4 年度事業報告、決算、R 5 年度事業計画・予算、実証運行利用状況の報告、R 5 年度事業概要、自家用有償旅客運送登録、地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請）
6月30日	○ 地域公共交通計画認定申請書（フィーダー系統補助）提出（事務局→国）
8月25日	○ 第 2 回福智町地域公共交通会議（実証運行利用状況の報告、自家用有償旅客運送登録申請、本格運行準備状況）
8月29日	○ 自家用有償旅客運送の登録の申請提出（自治体→国） ※8/25の交通会議にて運行開始日、運行形態、自家用旅客運送の種別、運送の区域、対価の額等の協議が調ったため
9月	○ 広報ふくち 9 月号でふく～るバス「本格運行」についての Q & A 及び公共交通（田川構内自動車、平成筑豊鉄道）の特集記事掲載
10月1日～ 3月31日	○ ふく～るバス本格運行開始
3月18日	○ 第 3 回福智町公共交通会議（ふく～るバス運行実績、福智町地域公共交通計画見直し、次年度実施予定事業）
3月25日	○ 令和 6 年度 共創・MaaS実証プロジェクト（実証運行事業）の応募書類提出

令和 6 年度 福智町地域公共交通会議事業計画（案）

	事業内容		
4 月	・ 令和 6 年度 共創・MaaS実証プロジェクト応募書類のアップロード ・ ミーティングポイント（乗降箇所）の検討（通年）		
5月9日	・ 令和 6 年度 共創・MaaS実証プロジェクト採択結果通知の受領		
5月15日	・ 令和 5 年度 福智町地域公共交通会議決算監査		
5月21日	・ 令和 6 年度 第 1 回福智町地域公共交通会議（R 5 年度事業報告・決算、R 6 年度事業 計画予算決議、R 6 年度事業概要、地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請）		
6 月	・ 令和 6 年度 共創・MaaS実証プロジェクトの交付決定通知 ・ 車両契約 ・ A I システム改良、開発（～ 8 月） ・ 地域内フィーダー系統確保維持計画認定申請（6 月末）	M a a S 実証プロジェクト	令和 6 年度 共創・
8 月			
9 月	・ 広報・周知活動（～随時） ・ 車両改造 ・ A I システム試験 ・ 利用者向け広報支援		
1 0 月	・ 車両納品 ・ A I システム納品		
1 1 月	・ 第 2 回福智町地域公共交通会議 ・ 車両、A I システム運用 ・ 町民および利用者アンケート調査（～12月）		
1 2 月			
1 月	・ 令和 6 年度 共創・MaaS実証プロジェクト事業検証		
2 月	・ 第 3 回福智町地域公共交通会議 ・ 令和 6 年度 共創・MaaS実証プロジェクトの共創事務局への完了実績報告		
3 月			

令和6年度事業概要

1. これまで経緯

令和3年6月 福智町地域公共交通計画策定

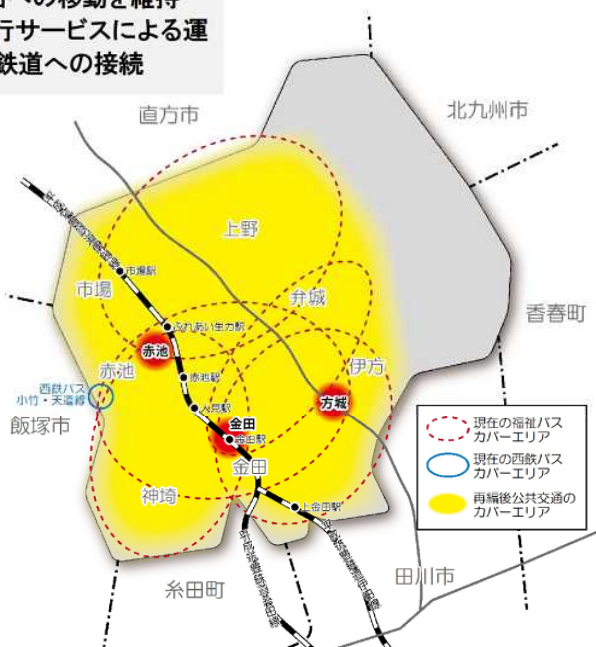
- 「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律（平成 19 年法律第 59 号）」に基づき、福智町は持続可能で利便性の高い公共交通網の維持・確保、実効性ある取り組みとして「福智町地域公共交通計画」を令和 3 年 6 月に策定（令和 6 年 3 月一部改訂）。
- 計画では、西鉄バス廃止や交通事業者の人材不足等の課題をふまえ、町外移動を平成筑豊鉄道とタクシーが担い、町内移動はタクシーとの共存の上で、現行福祉バスの利便性向上を目指し自家用有償による AI オンデマンド導入を目指す**こととしている。

町外移動：平成筑豊鉄道、西鉄バス、タクシーによる田川市・直方市・飯塚市方面への移動を維持
町内移動：AI活用による予約型運行サービスによる運行効率化、利便性向上、鉄道への接続

利用者 にとっては、現在の公共交通カバーエリアが変わることなく、予約に応じた最短ルートの移動によるストレス軽減、利便性向上を実現

事業者 にとっては、AI デマンド運行による運行効率化や予約から配車までの事務負担軽減、運転手の長時間運転の解消、車両の長寿命化などを実現

行政 にとっては、有償化による運賃収入、国の補助金活用による財源確保など、持続可能な交通インフラの構築



令和5年1月～令和5年9月 AIオンデマンドバス「ふく～る」実証運行

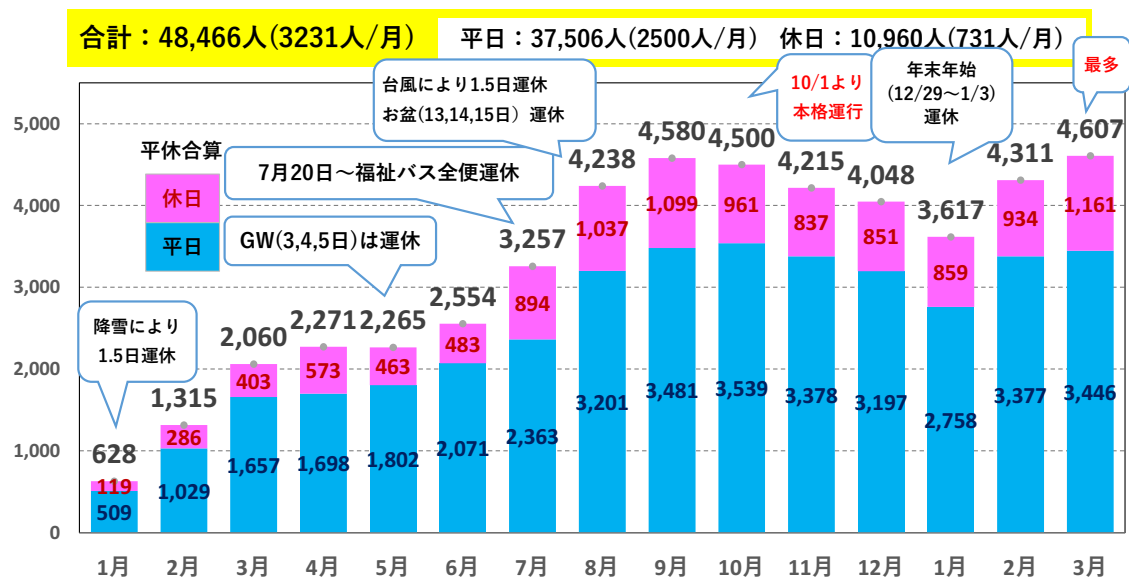
- 地域公共交通計画に基づき、現行福祉バス利便性向上に向けては、利用者・事業者・行政の混乱や不安を抑制するため、段階的な取組で事業展開することとした。
- 令和5年1月からは、町内全域を対象に無償によるAIオンデマンドバス「ふく～るバス」実証運行を開始。「ふく～るバス」利用者数は好調を推移し、持続可能な町内移動手段として、今後は無償から有償への転換も視野に検討する**こととした。



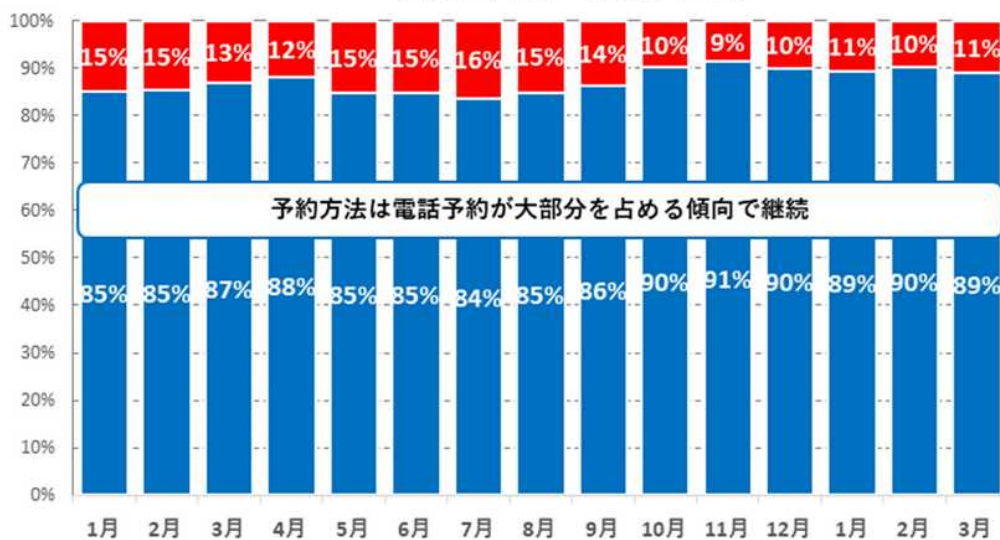
令和5年10月～ AIオンデマンドバス「ふく～る」本格運行へ移行

- 令和5年10月1日から、自家用有償旅客運送による本格運行へ移行。
- 有償化移行に伴う大きな混乱もなく、利用者也大きな落ち込みも見られず、地域の移動手段として定着。
- 車両運用の目安と言える、乗合率も運行当初の3割程度から、現在では月平均で5割となり、平日午前中の時間帯などのピーク時にはほぼ乗合による運行を実現。
- 今後、「ふく～るバス」の更なる利用拡大を目指した定期券等の新たな運賃サービスや地域イベントと連携した企画乗車券の検討を図ることとした。
- また、予約方法で電話が約9割と大多数を占めている現状をふまえ、利用者の利便性向上と合わせて、運行側の負担軽減も考慮した予約アプリ開発を検討することとした。

ふく～るバス利用者数推移 [令和5年1月10日(火)～令和6年3月31日(日)]



予約方法 ■ スマホ ■ 電話
令和5年1月～令和6年3月



2. 令和6年度事業概要

- ・ 福智町地域公共交通計画に基づき、令和6年度には以下の事業実施を予定。
- ・ 福智町地域公共交通会議での承認の上で、事業実施を判断とする。

令和6年度事業概要

事業①

【福智町地域公共交通計画の中間検証】

- ・ 福智町地域公共交通計画(令和3年度～令和8年度)では、計画中間期で目標達成状況の評価を実施することとしている。令和5年10月からのふく～るバス本格運行移行をふまえ以下の調査・検証を行う。
調査1:町民アンケート(公共交通利用率、公的資金投入の理解度など)
調査2:ふく～る利用者アンケート(利用頻度など)

事業②

【LINE 連携アプリ開発】

- ・ 福智町公式 LINE アカウントと連携したアプリ開発により、ふく～るバス予約方法を改善
- ・ 高齢者にも使いやすいアプリ開発とともに、運営側の負担軽減(属性や運賃種別など情報管理)、町 DX 推進係とも連携した行政 DX 強化の一環として取組を検討する。



事業③

【公共交通利用促進に向けた取組】

- ・ 町内温泉施設と連携した企画乗車券の導入検討。
- ・ フクチこども夢フェスタなどの地域イベントでの公共交通 PR。

事業④

【老朽化車両の更新】

- ・ ふく～るバスの車両更新(今後のドライバー確保を考慮し10人乗り車両を検討)。



【共創モデル実証プロジェクト採択結果】

- ・ 上記取組について、財源確保を目的に共創モデル実証プロジェクトを申請。
- ・ 令和6年5月9日に事業採択の通知受理。
- ・ 今後1カ月以内に補助金交付申請を提出し、補助金交付決定後に各事業委託の上で各事業を開始予定。

3. 今後の予定

項目	令和6年												令和7年		備考
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月					
0. 共創モデル交付金申請	●●														
1. 老朽化車両更新															実施主体：福智町、社会福祉協議会
1-1.車両契約	●	●													
1-2.車両改造					●	●								納期は未確定のため変更の可能性あり	
1-3.車両納品						●	●								
2. AIシステム改良															実施主体：未来シェア、駅探
2-1.仕様確認	●	●													
2-2.基本設計															
2-2.システム開発			●	●											
2-3.試験				●	●										
2-4.システムの納品					●	●									
2-5.運用・保守															
3. 事業構築支援・検証															実施主体：千代田コンサルタント
3-1.システム構築支援	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
3-2.利用者向け広報支援			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
3-3.町民および利用者アンケート調査						●	●	●	●	●	●	●	●	●	
3-4.事業者意見交換								●	●	●	●	●	●	●	
3-5.事業検証									●	●	●	●	●	●	
3-8.報告書とりまとめ													●	●	
福智町地域公共交通会議	★(本日)											★		★	
共創事務局への進捗報告		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
共創事務局への完了実績報告														●	

様式第 1－1（日本産業規格 A 列 4 番）

番 号
令和 年 月 日

国土交通大臣 殿

氏名又は名称 福智町地域公共交通会議
住 所 福岡県田川郡福智町金田 937 番地 2
代表者氏名 会長 竹下 靖

地域公共交通計画認定申請書
(案)

地域公共交通計画のうち、地域公共交通確保維持事業に係る計画を別紙のとおり定めたので、関係書類を添えて申請します。

※本申請書に、記載すべき事項を全て記した地域公共交通計画を添付すること。

令和〇〇年〇〇月〇〇日

(名称) 福智町地域公共交通会議

1. 地域公共交通確保維持事業に係る目的・必要性

[必要性]

- ・ 福智町の総人口は令和2年国勢調査で約2.1万人であり、今後も人口減少と少子高齢化が進むことが予測されている。人口分布は町中央の平野部から中山間地域に幅広く分散し、公共施設をはじめとした主要施設も同様に金田本庁、赤池支所、方城支所の周辺に分散して立地している。そのため、町の公共交通は、町内に分散する居住地と目的地とを効率的に結ぶサービスが求められている。
- ・ 町では、令和3年6月に「福智町地域公共交通計画」を策定し、現在では、町外移動を平成筑豊鉄道が担い、町内移動はAIオンデマンド交通「ふく～るバス」（令和5年10月から本格運行へ移行）が担い、町内外の移動をタクシーが補完している状況となっている。
- ・ また「ふく～るバス」は、導入検討時にはコロナ禍の影響もあり、西鉄バス廃止など既存事業者の参画が厳しい中、社会福祉協議会との協議の結果、自家用有償旅客運送によって福智町が運営主体、社会福祉協議会が運行主体としてサービスを提供している。
- ・ 令和5年10月の本格運行（有償化）以降、無償実証運行時と大きく利用者数は変わることなく、概ね1カ月あたり4千人超に利用されている。そのため、今後も平成筑豊鉄道、ふく～るバス、タクシーの役割分担のもと、住民や来訪者の移動手段の確保に努めることが求められている。

[目的]

- ・ 町では、福智町地域公共交通計画に基づき、計画に掲げている基本理念「住みたい、住み続けたいまちづくりに寄与する公共交通の展開」を実現するため、広域幹線を平成筑豊鉄道と位置付け、地域内フィーダー系統をふく～るバス、それぞれを補完するタクシーの役割分担のもと、持続可能な公共交通の取組を進めていくことを目的とする。

2. 地域公共交通確保維持事業の定量的な目標・効果

(1) 事業の目標

◆指標①：町内公共交通の利用者数

令和5年度：30,500人 令和6年度：37,000人 令和7年度：43,500人
令和8年度：50,000人（計画最終年度）

◆指標②：公共交通の収支率

令和5年度：16% 令和6年度：19% 令和7年度：22%
令和8年度：25%（計画最終年度）

◆指標③：公共交通への福智町財政負担額

令和5年度：32,000千円 令和6年度：30,000千円 令和7年度：27,500千円
令和8年度：25,000千円（計画最終年度）

(2) 事業の効果

- ・ 「ふく～るバス」による町内移動の利便性向上、交通空白地域の解消。
- ・ タクシー利用促進による交通弱者の町内外移動の確保及び町内交通事業者の役割分担、補完し合う運行サービスの実現
- ・ 自家用有償旅客運送及び国庫補助活用による福智町財政負担の抑制

3. 2. の目標を達成するために行う事業及びその実施主体
◆ A I オンデマンド交通「ふく～るバス」運行 （自家用有償旅客運送：福智町、運行者：福智町社会福祉協議会） ◆ タクシー利用促進事業 （田川構内自動車） ◆ 鉄道・タクシー・A I オンデマンド交通の周知広報 （福智町） ◆ A I オンデマンド交通の利用環境整備 （福智町）
4. 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運送予定者
地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱「表 1」を添付。 ① 運行時刻：8 時 3 0 分～1 7 時 運行期間：毎日（年末年始及びGW期間を除く） ② 決定経緯：福智町地域公共交通会議（令和 6 年 5 月 21 日開催）にて了承。 ③ 補足説明：A I オンデマンド交通は事前予約型区域運行とし、乗降場所については、タクシー事業との差別化の観点からミーティングポイント方式を採用。乗降場所には平成筑豊鉄道駅が含まれ、A I オンデマンドの特徴である到着時刻指定で利用により鉄道乗継が可能となる。
5. 地域公共交通確保維持事業に要する費用の総額、負担者及びその負担額
地域公共交通確保維持事業によって運行の維持を図る A I オンデマンド交通は、その運行に係る費用総額約 30, 000 千円のうち、運行収入及び国庫補助金を運行経費から差し引いた差額分を福智町が負担する。
6. 2. の目標・効果の評価手法及び測定方法
利用者数や収支については、運行実績によるモニタリング・評価を実施 なお、計画中間年度として令和 6 年度に町民アンケートなどの調査を実施し、事業検証を予定。また、計画最終年度（令和 8 年度）には町民アンケートにより、「町民の公共交通利用率、利用頻度、公的資金投入に対する理解度」の検証を行う予定。
7. 別表 1 の補助対象事業の基準ホただし書に基づき、協議会が平日 1 日当たりの運行回数が 3 回以上で足りると認めた系統の概要 【地域間幹線系統のみ】
該当なし
8. 別表 1 の補助対象事業の基準二に基づき、協議会が「広域行政圏の中心市町村に準ずる生活基盤が整備されている」と認めた市町村の一覧 【地域間幹線系統のみ】
該当なし
9. 生産性向上の取組に係る取組内容、実施主体、定量的な効果目標、実施時期及びその他特記事項 【地域間幹線系統のみ】
該当なし

10. 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要 【地域内フィーダー系統のみ】
表5を添付
11. 車両の取得に係る目的・必要性 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
該当なし
12. 車両の取得に係る定量的な目標・効果 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
(1) 事業の目標
該当なし
(2) 事業の効果
該当なし
13 車両の取得計画の概要及び車両の取得を行う事業者又は地方公共団体、要する費用の総額、負担者とその負担額 【車両減価償却費等国庫補助金・公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
該当なし
14. 老朽更新の代替による費用の削減等による地域公共交通確保維持事業における収支の改善に係る計画（車両の代替による費用削減等の内容、代替車両を活用した利用促進策） 【公有民営方式車両購入費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
該当なし
15. 貨客混載の導入に係る目的・必要性 【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
該当なし
16. 貨客混載の導入に係る定量的な目標・効果 【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
(1) 事業の目標
該当なし
(2) 事業の効果
該当なし
17. 貨客混載の導入に係る計画の概要、要する費用の総額、内訳、負担者及び負担額 【貨客混載導入経費国庫補助金を受けようとする場合のみ】
該当なし

18. 協議会の開催状況と主な議論

- ◆令和3年度
第2回協議会（6月）
福智町地域公共交通計画策定
- ◆令和4年度
第1回協議会（7月）
A I オンデマンド実証運行実施に関する再編事業計画の承諾
第2回協議会（3月）
A I オンデマンド実証運行状況の報告
A I オンデマンド実証運行継続及び本格運行移行に関する協議
- ◆令和5年度
第1回協議会（6月）
自家用有償旅客運送及び本格運行移行および地域内フィーダー系統に関する協議
第2回協議会（8月）
自家用有償旅客運送登録申請に関する協議
第3回協議会（3月）
ふく～るバス運行実績報告、福智町地域公共交通計画見直しに関する協議
- ◆令和6年度
第1回協議会（5月）
地域内フィーダー系統に関する協議

19. 利用者等の意見の反映状況

- ◆ 令和元年度には、地域公共交通計画策定検討に先立ち、全世帯（7,000世帯）向けのアンケート調査を実施。また、福祉バス利用者に対する要望・意向調査を実施。
→町民の大部分が車利用であり、公共交通は交通弱者に限られている現状を把握。
→福祉バス利用者は利便性向上と合わせた有償化へ85%が賛同。
- ◆ 令和4年度には、A I オンデマンド実証運行期間中の3月にA I オンデマンド利用者向けのアンケート調査、福祉バス利用者への意向調査を実施。
→A I オンデマンド利用者の8割以上がサービスに満足と回答。運行継続をほぼ全ての方が望み、有償化への移行は9割が賛同。
- ◆ 令和4年度には、A I オンデマンド実証運行期間中の3月に「社会福祉協議会」運転手及びオペレーター、職員向けのアンケート調査を実施。
→運転手及びオペレーターに運用上の大きな混乱はなく、取組についても高評価。

【本計画に関する担当者・連絡先】

（住 所）福岡県田川郡福智町金田 937 番地 2

（所 属）福智町役場 まちづくり総合政策課

（氏 名）日永田 憲章

（電 話）0947-22-7766

（e-mail）fg0500@town.fukuchi.lg.jp

表1 地域公共交通確保維持事業により運行を確保・維持する運行系統の概要及び運送予定者（地域内フィーダー系統）

7年度

市区町村名	運送予定者名	運行系統名等 (申請番号)	運行系統			系統 キロ程	計画 運行 日数	計画 運行 回数	利便増進特例措置	運送継続特例措置	地域内フィーダー系統の基準適合 (別表7・別表9・別表10)		
			起点	経由地	終点						運行態様の別	基準ハで該当する要件 (別表7・別表9)	補助対象地域間幹線系統等と接続の確保 (別表7のみ)
福智町	福智町	(1) ふくく〜るバス		福智町域		往 km 復 km	353日	18,000回			区域	②(1)	①
		(2)				往 km 復 km	日	回					
		(3)				往 km 復 km	日	回					
		(4)				往 km 復 km	日	回					
		(5)				往 km 復 km	日	回					

(注)

1. 乗用タクシーによる運行の場合は、「運行系統名等」に運賃低廉化を行う運行サービスの名称を記載すること。
2. 区域運行又は乗用タクシーによる運行の場合は、運行系統の「経由地」に営業区域又は運賃低廉化対象地域を記載することとし、「起点」、「終点」、「終点」及び「系統キロ程」について記載を要しない。
3. 「系統キロ程」については、小数点第1位(第2位以下切り捨て)まで記載すること。なお、循環系統の場合には、往又は復のどちらかの欄に「循環」と記載すること。
4. 「利便増進特例措置」及び「運送継続特例措置」については、利便増進計画又は運送継続計画の認定を受け、地域内フィーダー系統に係る特例措置の適用(別表9又は別表10)を受けて補助対象となる場合のみ「○」を記載すること。
5. 「運行態様の別」については、路線定期運行、路線不定期運行、区域運行、乗用タクシーによる運行の別を記載すること。
6. 「補助対象地域間幹線系統等と接続の確保」については、地域内フィーダー系統が接続する補助対象地域間幹線系統又は地域間交通ネットワークなどのように接続を確保するかについて記載すること。
7. 乗用タクシーによる運行の場合は、「運行系統名」「利便増進特例措置」について記載を要しない。
8. 本表に記載する運行予定系統を示した地図及び運行ダイヤを添付すること。乗用タクシーによる運行の場合は、営業区域を示した地図を添付すること。

表5 地域公共交通確保維持改善事業を行う地域の概要

市区町村名	福智町
-------	-----

(単位:人)

	人 口
人口集中地区以外	21,398
交通不便地域等	21,398

交通不便地域等の内訳

人 口	対象地区	根拠法
21,398	全域	過疎法

地域公共交通計画、地域公共交通利便増進実施計画、地域旅客運送サービス継続実施計画の策定年月日及び
特例適用開始年度

計画名	策定年月日	特例適用開始年度
福智町地域公共交通計画	令和3年6月25日策定 令和6年3月18日一部改訂	

(1)記載要領

1. 人口は最新の国勢調査結果を基に記載すること。ただし、地方運輸局長等が指定する交通不便地域の場合は、申請する年度の前年度の3月末現在の住民基本台帳を基に記載すること。
2. 「人口集中地区以外」の欄は、国勢調査結果により設定された人口集中地区に該当しない地区の人口を記載すること。
3. 「交通不便地域等」の欄は、地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱（以下、「交付要綱」という。）の別表7（ハ②（1））に記載のある過疎地域の人口、交付要綱別表7（ハ②（2）（実施要領の2.（1）⑪））に基づき地方運輸局長等が指定する交通不便地域の人口及び交付要綱別表7リに基づき地方運輸局長等が認める地域の合計（重複する場合を除く）を記載すること。
4. 「対象地区」の欄には、当該市町村の一部が交付要綱別表7（ハ②（1））に掲げる法律（根拠法）に基づき地域指定されている場合に、根拠法ごとに当該区域の旧市町村名等を記載すること。また、地方運輸局長等が指定する交通不便地域等が存在する場合には、該当する区域名を記載すること。
5. 「根拠法」の欄は、交通不便地域を地方運輸局長等が指定した場合は、「局長指定」と記載すること。また、乗用タクシー以外での輸送が著しく困難であるものとして地方運輸局長等が認めた場合は、「局長指定（乗用）」と記載すること。
6. 「特例適用開始年度」の欄は、地域公共交通利便増進実施計画又は地域旅客運送サービス継続実施計画を策定し、特例を適用する場合に記載すること。

「ふく〜るバス」運行実績

1. 運行概要

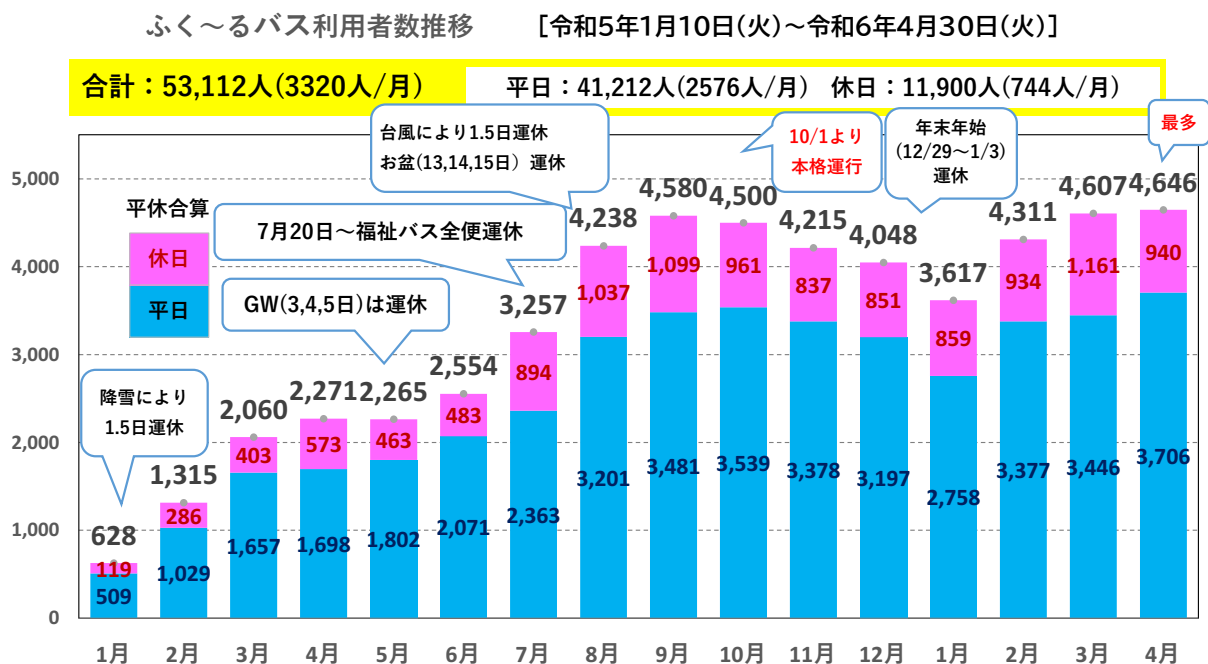
運行概要	
運行期間	第一期:令和5年1月10日(火)~3月31日(金) 第二期:令和5年4月1日(土)~9月30日(土) 本格運行:令和5年10月1日(日)~
運行方式	第一期および第二期:無償による事前予約型エリア運行 本格運行:自家用有償旅客運送
運行時間帯	8:30~17:00
使用車両	第一期および第二期:3台体制→5台体制 本格運行:5台体制
予約方法	電話及びweb
AIシステム	未来シェア:SAVS(Smart Access Vehicle Service)
運行エリア	町内全域
現行福祉バス	第一期:循環線コースを除く4コースは実証運行期間中も従来通り運行 第二期:7月20日(木)から福祉バス全便運休 本格運行:福祉バス全便運休
乗降箇所	ミーティングポイント方式(福祉バスの既設乗り場及び追加乗り場)
運行日	毎日運行(年末年始、GW、お盆は運休)
運行経路・時間	予約状況に応じて、AIによる最適化ルートで運行
運行者	福智町社会福祉協議会



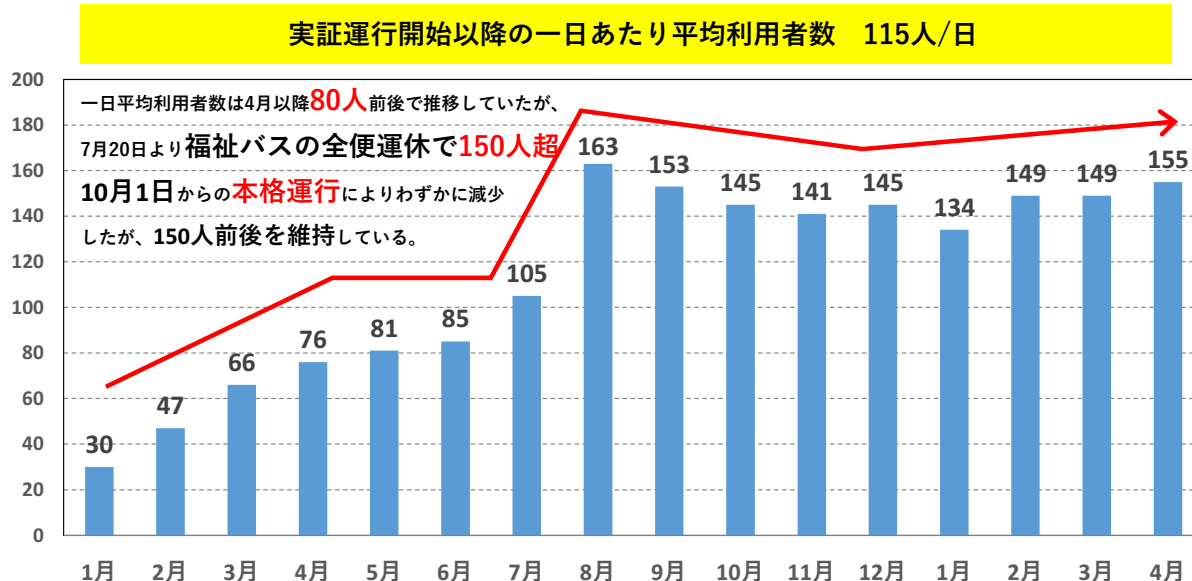
2. 実証運行利用状況 [集計期間]令和5年1月10日(火)～令和6年4月30日(火):運行日数 461 日間

(1)ふく～るバスマ月別利用者数

- 10月1日からの本格運行(有償化)への移行に伴い、1ヵ月あたりの利用者総数は前月比より約1割ずつ減少傾向にあったが、2月以降は増加傾向に転じており、4月の利用者は過去最大の4,646人であった。
- 平休別では、前月より平日は約8%増加、休日は約19%減少していた。
- 1日あたりの利用者数は、前月より4%増加し155人となっている。

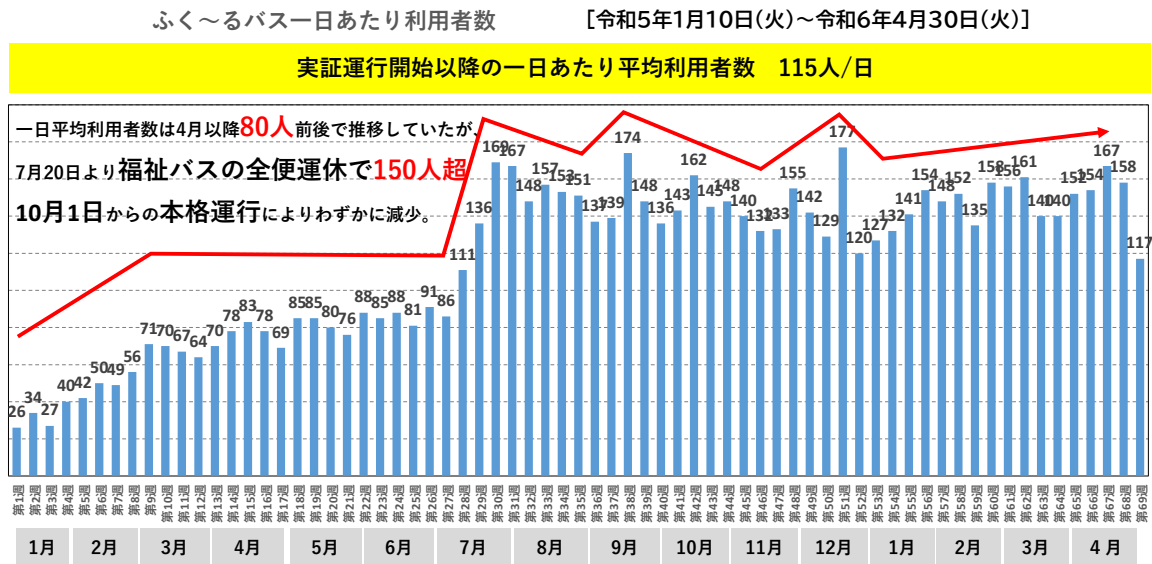
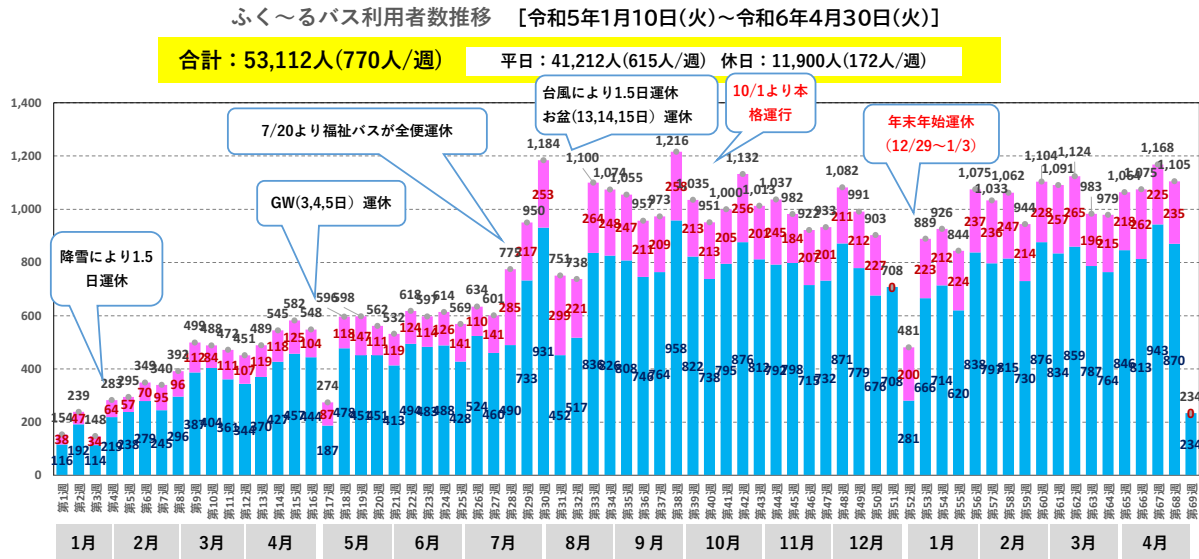


ふく～るバス一日あたり利用者数 [令和5年1月10日(火)～令和6年4月30日(火)]



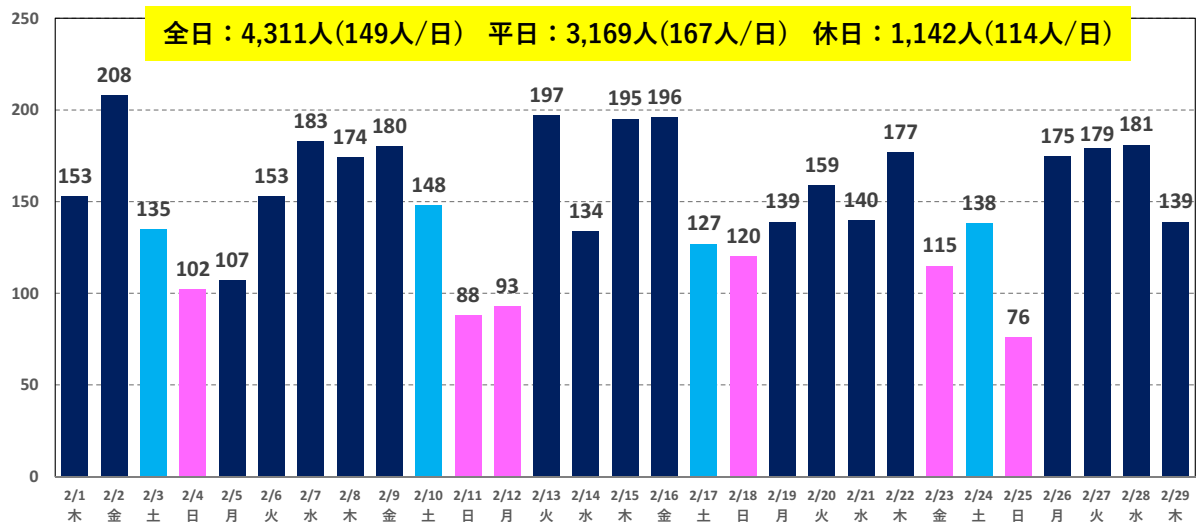
(2)ふく～るバス週別利用者数

- 本格運行移行後、10月以降は1週間あたり1,000人前後での利用で定着。
- 一日あたりの平均利用者数は10月以降、140人前後で落ち着いており、年末年始の運休や降雪による運休で1月は若干減少したが、2月以降は150人前後をキープしている。

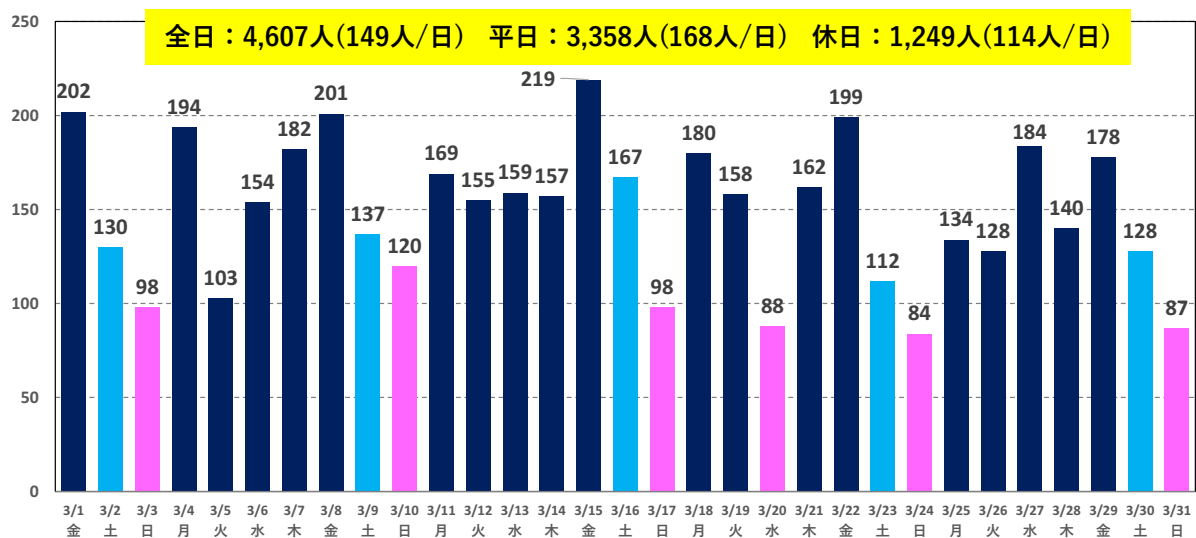


(3)ふく～るバス日別利用者数(直近 3 カ月)

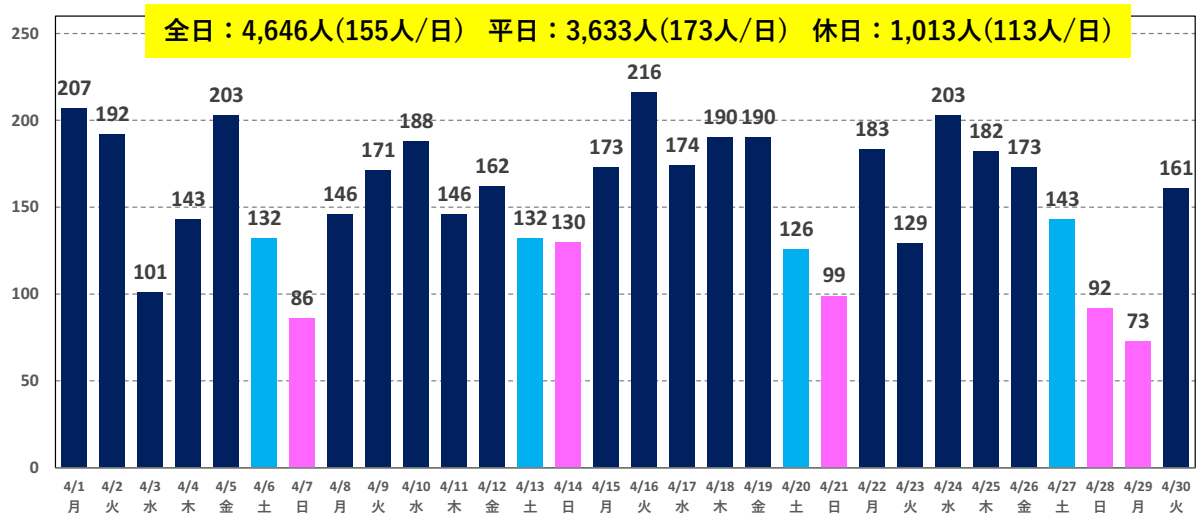
令和 6 年 2 月：ふく～るバス利用者数



令和 6 年 3 月：ふく～るバス利用者数



令和 6 年 4 月：ふく～るバス利用者数



(4)新規利用者の獲得状況

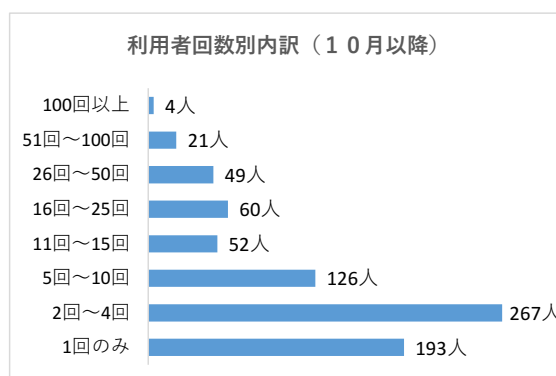
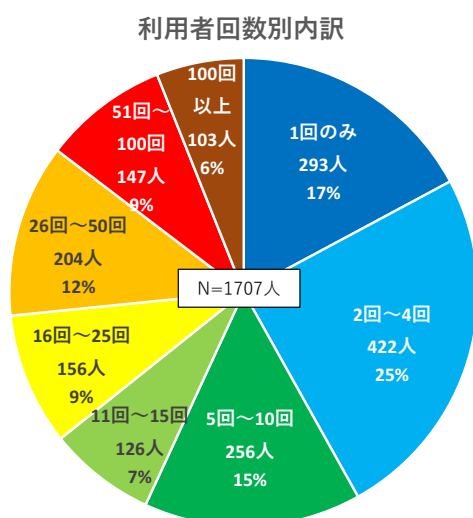
- 現時点での実質利用者は1707人。
- 9月、10月は40人前後で新規利用者の獲得が続いていたが、11月以降20人前後に落ち着いている。



注)新規利用者は予約時のログイン名(主に名前)でのカウント

(5)利用回数別の状況

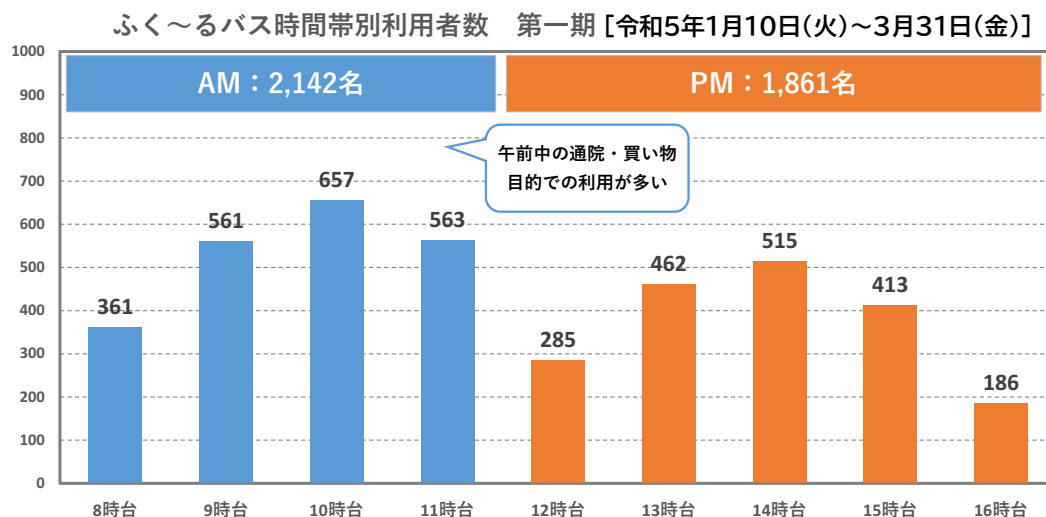
- 令和5年1月以降の各利用者の利用回数は2回～4回が約25%で最も多く、複数回利用が全体の約8割以上を占める。5回以上の利用が半数以上を占めており、11回以上利用しているユーザーも約4割以上みられる。
- 本格運行移行後の6カ月間では2回～4回の利用が最も多く、次いで1回のみとなっているが、5回以上利用しているユーザーは約4割を占めている。



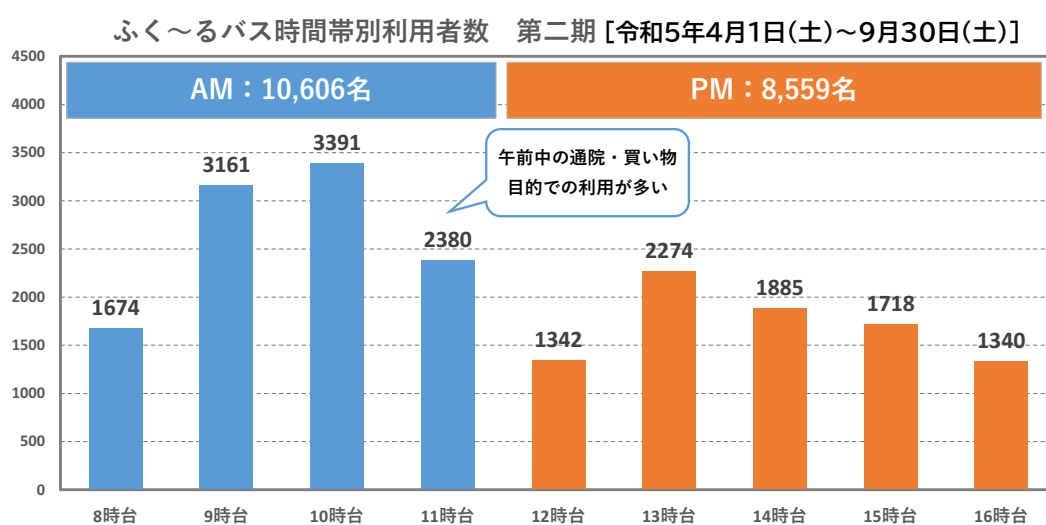
(6)時間帯別利用状況

- 時間帯別利用は、午前中の利用が多い傾向で、9 時台～11 時台の利用が最も多い傾向にある。一方で午後は 13 時台に利用が集中している。実証運行と本格運行で大きな差異は見られない。

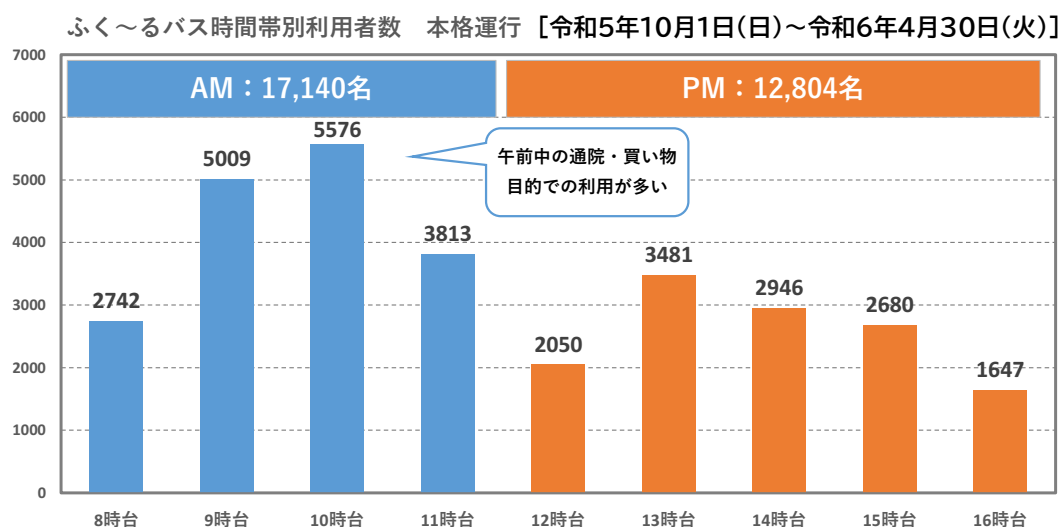
[第一期実証運行]



[第二期実証運行]



[本格運行]



(7)乗降箇所別利用状況

- 乗降地点の上位 30 位の結果として、トライアルでの乗降者数が最も多く、日常の買い物時に利用されている。また、赤池・方城への通院利用、町役場等の公共施設利用、金田駅での鉄道利用、温泉利用など、様々な目的での外出支援への貢献が伺える。

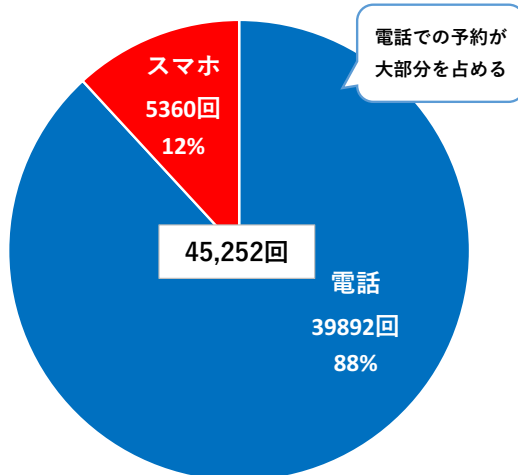
[乗降地点別の利用者数：上位 30 位]

乗車地点	R5.1～R6.4		R5.10月以降		降車地点	R5.1～R6.4		R5.10月以降	
	利用者数	RANK	利用者数	RANK		利用者数	RANK	利用者数	RANK
トライアル前	4854	1	2672	1	トライアル前	4844	1	2652	1
方城診療所	3163	2	2055	2	方城診療所	2919	2	1957	2
金田駅前	2779	3	1750	3	赤池協同医院前	2870	3	1535	4
赤池協同医院前	2674	4	1394	4	金田駅前	2488	4	1608	3
金田三区公民館前	2112	5	1057	6	金田三区公民館前	2302	5	1146	6
たくまクリニック	1667	6	1313	5	たくまクリニック	1719	6	1366	5
福智町役場金田本庁	1462	7	815	7	商工会館前	1649	7	721	8
商工会館前	1103	8	474	13	福智町役場金田本庁	1393	8	763	7
ドラッグコーエイ田川金田店	1081	9	657	8	赤池駅前	1091	9	559	11
赤池駅前	1001	10	469	14	ドラッグコーエイ田川金田店	1048	10	636	9
伏原団地入口	875	11	572	10	県営伏原団地前	993	11	475	13
県営伏原団地前	861	12	432	15	日王の湯入口	974	12	317	19
人見公民館成竹分館	831	13	306	23	人見公民館成竹分館	815	13	366	18
方城支所停留所	801	14	524	11	伏原団地入口	802	14	498	12
ほうじょう温泉	775	15	425	16	ほうじょう温泉	745	15	468	14
日王の湯入口	774	16	329	20	人見団地入口	732	16	188	40
人見団地入口	771	17	260	28	福智町役場赤池支所	715	17	289	23
福智町役場赤池支所	738	18	310	22	金田郵便局	689	18	449	15
赤池団地	716	19	364	18	スーパー川食赤池店入口	616	19	616	10
八幡町停留所	668	20	506	12	方城支所停留所	607	20	414	16
赤池交番前	622	21	321	21	シルバーケア金田	600	21	297	22
スーパー川食赤池店入口	609	22	609	9	野地集会所	597	22	383	17
金田社会福祉センター	605	23	200	38	図書館（ふくちのち）	581	23	267	27
大黒団地集会所	538	24	303	24	赤池交番前	543	24	274	24
野地集会所	509	25	340	19	赤池団地	526	25	248	31
金田郵便局	506	26	297	25	ニュータウン中央	510	26	270	26
古門団地交差点	492	27	404	17	金田社会福祉センター	501	27	225	32
図書館（ふくちのち）	469	28	170	46	大黒団地集会所	493	28	273	25
若草教育集会所前	465	29	257	29	東ヶ丘集会所	478	29	266	28
日吉神社前	452	30	218	33	日吉神社前	465	30	214	33

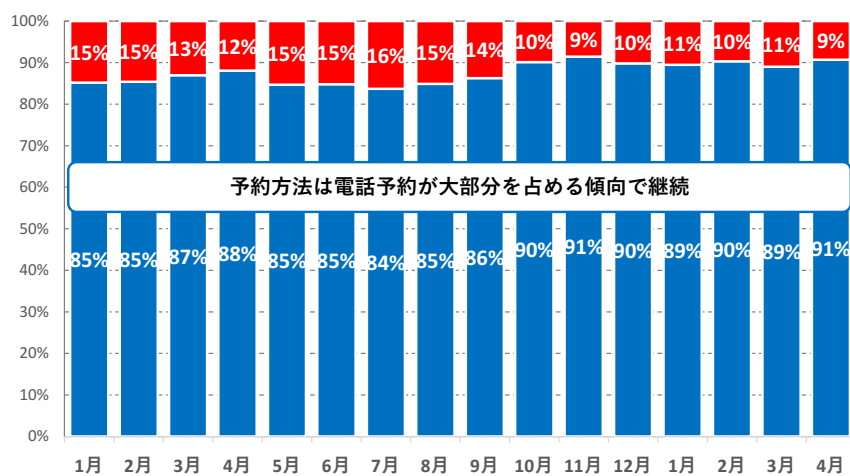
(8)予約方法

- 利用者の予約方法は、電話予約が8割超を占めている。
- 10月以降は電話予約が9割に達している。

予約方法
(令和5年1月～令和6年4月)



予約方法
令和5年1月～令和6年4月

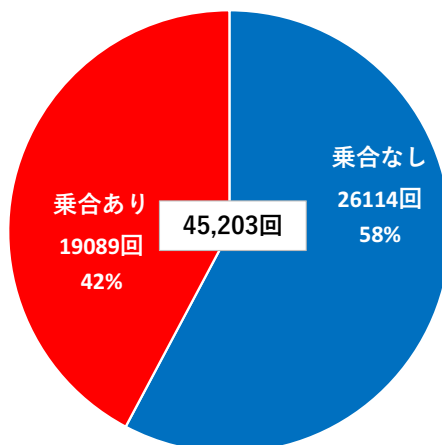


(9)乗合率

- 予約が重なった際に同一車両で乗合となるケースは、全運行回数のうち約4割であり、運行開始以降の利用者増加を通じて、乗合率も増加傾向にあり、直近2月は47%と上昇している。

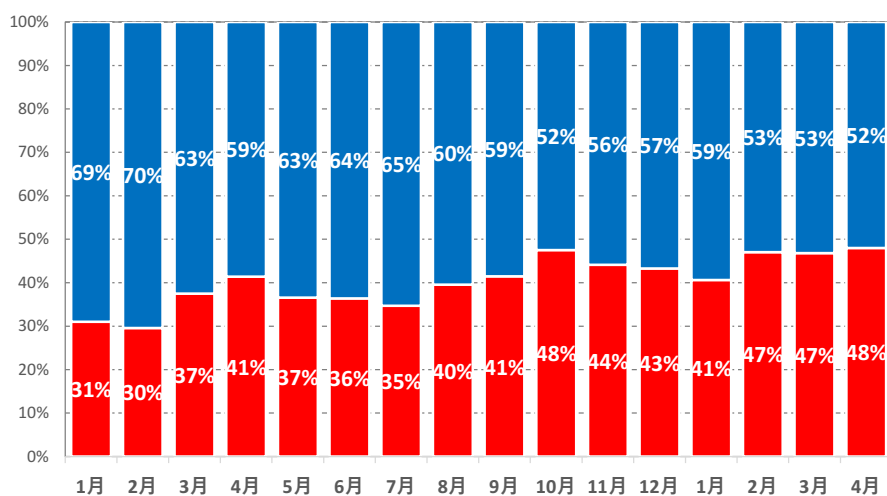
乗合率

[令和5年1月10日(火)～令和6年4月30日(火)]



月別乗合率

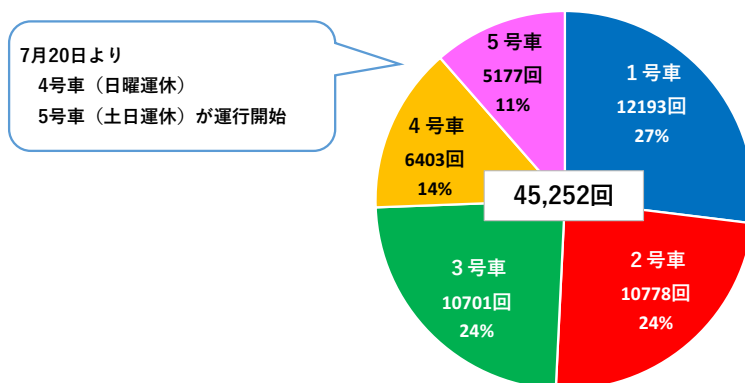
[令和5年1月10日(火)～令和6年4月30日(火)]



(10)車両運用状況

- 7月20日から新たに4号車(日祝運休)と5号車(土日祝運休)が加わり、現在は通常5台の車両で運用している。
- 10月以降、1号車から3号車は1カ月あたり1000回(1日あたり約30回)の運行となっている。4号車および5号車も上記同様に1日あたりは約30回程度の運行となっている。

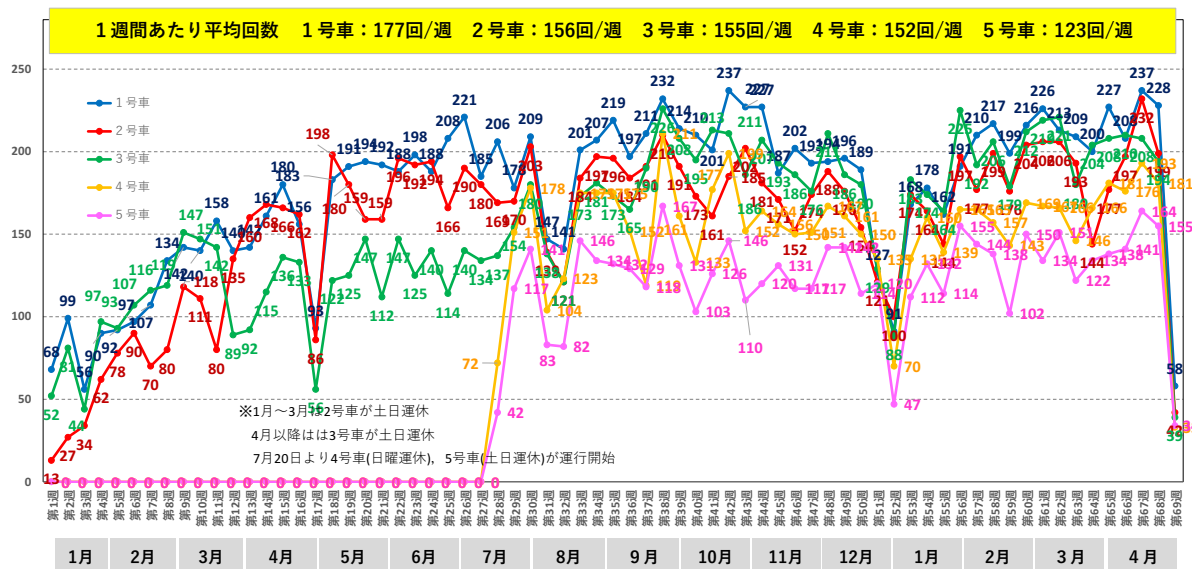
車両別運行割合
[令和5年1月10日(火)～令和6年4月30日(火)]



※運行回数のため利用者数合計とは合致しません

1,2,3月は2号車が土日運休、4月以降は3号車が土日運休あり

ふく～バス車両別運行回数 [令和5年1月10日(火)～令和6年4月30日(火)]

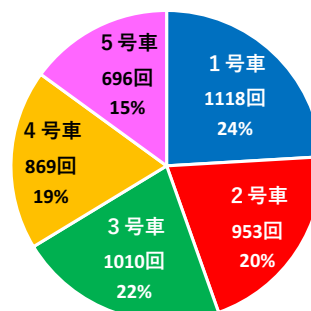


※3月車両運用

1号車:全日、2号車:全日、3号車:全日

4号車:日祝運休、5号車:土日祝運休

車両別運行割合 (R6.4月)



(11)利用者数と運賃収入

- 本格運行移行後、利用者数は大きな落ち込みはなく、1ヵ月あたり4,000人程度で推移している。
- 運賃収入も利用者数と同様に順調な推移となっている。10月以降は3月まで、利用者一人あたりの平均運賃は徐々に増加している。これは高齢者割引以外の一般利用の増加によるものと考えられる。
- 現在の利用が続けば、令和8年度計画目標に掲げた「5万人」は、初年度に達成が見込まれる。



[本格運行移行後の月別利用者数と運賃収入]

年月	利用者数	運賃収入	一人あたり運賃
R5.10	4,500 人	511,700 円	114 円/人
R5.11	4,215 人	488,300 円	116 円/人
R5.12	4,048 人	475,700 円	118 円/人
R6.1	3,617 人	433,000 円	120 円/人
R6.2	4,311 人	518,600 円	120 円/人
R6.3	4,607 人	573,200 円	124 円/人
R6.4	4,646 人	525,300 円	113 円/人